

## hinotori一例目を実施

令和5年9月8日(金)、国産手術支援ロボット「hinotoriサージカルロボットシステム」を用いた手術(ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術)が当院泌尿器科で初めて実施されました。



## 白衣授与式を実施

令和5年11月16日(木)、共用試験であるCBT(知識を問う試験)とOSCE(技術と態度を問う、診察に関する試験)に合格した医学科の4年生105人に対して、白衣が授与されました。



## 第88回ヘルスアカデミーを実施

令和5年12月10日(日)第88回ヘルスアカデミー「脳神経外科医が診る脳の病気について考えよう」を実施しました。てんかん、脳腫瘍、脳卒中等の疾患について講演を行いました。



## 当院から災害支援チームを派遣しました(JMAT・DMAT・DPAT)

能登半島地震の被災地支援のため、当院から1月中旬から2月上旬にかけて、計3回災害医療チームを派遣しました。災害医療チームは主に、七尾市、輪島市にて診療、搬送等を実施しました。当院では今後も可能な限り支援を行って参ります。



## 大規模災害訓練を実施しました

令和6年1月20日(土)、震度6強の地震を想定した、大規模災害訓練を実施し、避難経路の確認や消火、仮設薬局の設営等の訓練を実施しました。当院では今回の訓練を踏まえて浮かび上がった問題点を克服するよう対応策を検討し、災害拠点病院として更なる機能強化を図ってまいります。



## 小児科病棟クリスマス会を実施しました

令和5年12月13日(水)



円錐角膜デーライトアップ  
令和5年11月10日(金)～12日(日)

## 編集後記

本号では、新たに要職に就かれた教授および最近のトピックスについて紹介しています。3月23日には松山自動車道東温インターチェンジが開通し、アクセスの良くなった愛大病院には、高度先進医療の提供および地域医療診療体制の充実がますます求められそうです。前者については食道がん治療、てんかん診療およびロボット手術、後者については八幡浜地区および西条地区における救急・循環器診療の充実について取り上げております。今後も皆様の期待に応えられる愛大病院であり続けたいものです。

広報委員会委員長  
熊木天児



## 今月の表紙

令和6年 仕事始め式にて

## 飛竜乗雲 ～新たなProfessorの活躍～

- 01 | 食道がん手術を集約し、負担が少なく質の高い治療を提供
- 02 | 故郷・八西地区の地域医療を支え、次世代の医師を育成する
- 03 | 高齢化の進んだ西条エリアから心不全の情報を発信する
- 04 | 複数診療科が連携し、必要なてんかん医療を持続的に提供



# 仕事始め式

令和6年新春



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111(代)

情報発信中!



愛媛大学医学部附属病院  
ホームページ



医学部及び附属病院  
Instagram  
(2021年2月1日開設)



杉山隆病院長がパーソナリティを務めるラジオ番組  
Dr.杉ちゃんの「ウィークエンドクリニック」  
(2021年4月3日スタート、毎週土曜17:30～FM愛媛)



消化管・腫瘍外科学講座の紹介

## 食道がん手術を集約し、負担が少なく質の高い治療を提供

消化管・腫瘍外科学講座 教授 押切太郎

私は食道がんが多い扁平上皮がんに対するvirus vectorによる選択的治療、食道がん周術期治療における新規レジメン（治療計画）の開発、AIによる手術技法の評価といった医工連携、ビッグデータによる食道がん低侵襲手術のリスクモデル開発などを研究しています。研究と並行して今後は人材育成・地域医療への貢献・最先端治療の導入・学術的アウトプットの増進を進めます。県内には食道がん診療における専門医は少なく、食道がんの集約化と若手外科医のリクルート・育成に特に力を入れていきます。

消化管がんに関して当科では、手術のみでなく化学療法などを含めた包括的な治療を行っています。社会的背景や家族関係、性格など同じ疾患であっても同じ患者さんはひとりとしていません。患者さん個人を理解、把握し、向き合っていくよう努めています。研究で得られた知見は日常の診療に還元し、患者さんに少しでもよい治療を提供していきますので、どんなことでも御相談ください。



## PROFILE

おしきりたろう◎1995年北海道大学医学部卒業。兵庫県立がんセンター、神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野講師、同准教授などを経て、2023年8月より現職。

消化管・腫瘍外科学講座  
ホームページ消化器腫瘍外科  
ホームページ

地域救急医療学講座の紹介

## 故郷・八西地区の地域医療を支え、次世代の医師を育成する

地域救急医療学講座 教授 井上勝次

本講座は、市立八幡浜総合病院にサテライトセンターを置き、地域医療を支えるために設立された戦略型寄附講座です。私は西予市三瓶に生まれ、高校は八幡浜高校を卒業しました。本講座を運営するにあたり、成長させていただいた故郷に恩返しをしたいという想いで、地域医療に尽力する所存です。市立八幡浜総合病院は最新の診療装置を整備しており、全国トップレベルの心臓超音波専門技師をはじめ、献身的に地域医療を支えるスタッフが揃っています。救急患者さんに対応する病院として、全てのスタッフが協力して対応しています。

私は地域医療を実践するとともに、次世代を担う若手医師の育成に力を入れます。市立八幡浜総合病院で実践する地域医療から、愛媛大学で推進する最先端の医療まで、医学知識や診療技術の修得だけでなく、患者さんを想う医師の成長をサポートします。そして、市民講座を企画し、住民の皆様が心不全をはじめとする予防医学の重要性を伝えたいと思います。地域の皆様が心身ともに生き生きと生活出来るよう、本講座と市立八幡浜総合病院が連携してサポートをしたいと思っています。



## PROFILE

いのうえかつじ◎1996年愛媛大学医学部卒業。2018年にオスロ大学Otto Smiseth教授に師事し、超音波心エコー学、循環生理学を学ぶ。2023年12月より現職。趣味はサッカー、ドライブ、柴犬と遊ぶこと。大切にしていることは思いやりと感謝の心。

地域救急医療学講座  
ホームページ

心不全治療学講座の紹介

## 高齢化の進んだ西条エリアから心不全の情報を発信する

心不全治療学講座 教授 池田俊太郎

本講座は、高齢化による心不全パンデミックや専門医不足が深刻な地域の中核施設として西条中央病院（風谷幸男院長・西条市朔日市804番地）にサテライトセンターを置いています。私が今まで続けてきた高血圧や心筋症による心不全に関する臨床研究を活かし、心不全を中心とした循環器診療および教育・研究指導を行います。さらには愛媛大学が保有するネットワークと人的資源を活用することにより、地域医療活性化のための研究・教育体制を擁立することを目的としています。スタッフは私（今治市出身）と宮崎慈大助教（西条市下島山、西条東中学校出身）の2人です。

中でも、愛媛大学が持つネットワークと知的・人的資源を活用することにより、心不全予後改善のための診療・研究・教育の充実に注力していきます。西条エリアでの心不全診療を支援するとともに、愛媛大学循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座との連携を密にし、高度な先端医療の提供を軸とした幅広い医療活動を念頭に置いて活動していきます。



## PROFILE

いけだしゅんたろう◎小中時代は今治市で過ごし、松山東高校卒業後愛媛大学医学部入学。県立南宇和病院、市立宇和島病院と計17年間南予を中心に診療。東予で育ち、中予で学び、南予で仕事をした生粋の愛媛県人。2023年6月より現職。趣味は音楽鑑賞。

心不全治療学講座  
ホームページ前回掲載記事  
新任教授紹介西条中央病院  
ホームページ

てんかんセンターの紹介

## 複数診療科が連携し、必要なてんかん医療を持続的に提供

てんかんセンター長・脳神経外科講座 教授 國枝武治

てんかんの内科治療においては、新薬の開発と導入が基本で最新治療になります（本邦未導入薬剤や大麻関連薬剤）。外科治療に関しては、切除術につながる評価の変化（頭蓋内深部電極による脳波検査）と切除術とは異なるニューロモデュレーション治療の導入が最新となり、機器の開発も含めて発展の余地があります。てんかんセンターは2023年5月1日に設置され、センター運営委員会を中心に、複数診療科の連携強化による質の高い診断と治療を重点的に進めています。特に、長時間ビデオ脳波モニタリングの症例を増やして、必要な医療が必要な患者さんに届けています。まだまだソフト面でもハード面でも不十分ですが、複数の診療科・多くの職種で共同して、多くの課題に取り組んでいきます。今後、支援拠点病院の指定を受けて、事業を開始するとともに、県内の施設との連携・協働や全国のてんかんセンターとの交流を目指していきます。大きな目標として、「小児から高齢者まで切れ目なく、必要なてんかん医療を必要な人に提供するー愛媛だからあきらめるをなくすー」を挙げています。



## PROFILE

くにえただけはる◎1993年京都大学医学部卒業。大津赤十字病院脳神経外科、米国オハイオ州、クリブランドクリニック・リサーチフェロー、神戸市立中央市民病院脳神経外科、京都大学医学部附属病院脳神経外科を経て、2016年5月より愛媛大学医学部附属病院に就任。2023年5月より現職。趣味は落語を聞くこと、好きな言葉は「人を守ってこそ、自分を守れる」。

てんかんセンター  
ホームページ前回掲載記事  
新任教授紹介